

## 【2026 ワールドカップ・ソフィア大会（3日目）】

### 【団体】

●団体種目別 5位

《フープ3,クラブ2》

得点：23.800（DB 4.70／DA 5.80／A 7.55／E 5.75）

大会最終日となる3日目は、各種目別決勝が行われた。日本チームはフープ・クラブに出場し、これまでの課題を踏まえ、より高い完成度と実施精度を目指し試合に臨んだ。

日本チームは種目別決勝フープ・クラブにおいて5番目に登場した。演技冒頭から技をクリアに決め、4つの交換すべてにおいて移動を伴わず追加価値を実施できるなど、全体を通して落ち着いて演技に取り組むことができていた。序盤から中盤にかけては、精度とまとまりのある内容を示すことができた点は大きな成果である。

一方で、中盤のCCの乱れによりフェットへの入りが遅れ、フォームの不正確さから難度が得点につながらなかった点は非常に惜しい内容であった。その後は予選よりも高い精度で演技を進めることができていたものの、後半のCRにおいて相手へ投げるクラブの距離が不足し落下。さらに続く複数投げでは準備に時間を要し、追加価値を伴わない形での実施を試みたが、距離不足により難度が成立しない結果となった。

しかしながら、ミス発生後の立て直しは比較的速く、演技の流れを大きく崩すことなく継続できたことにより、芸術面においては予選を上回る得点を獲得した。今大会は各国ともにミスが順位に直結する中、ミスなくまとめたチームが上位を占める結果となったが、日本チームにおいても演技構成や質の高さは十分に評価されており、その上で安定性の向上が今後の重要な課題であることが明確となった。

また、新チームとして初めて臨んだ国際大会において、臆することなく演技を実施できた点は大きく評価できる。今後は、演技全体の精度向上に加え、イレギュラーな状況への対応力や試合運びの向上、さらにはフィジカル面の強化を図ることで、より安定して得点を積み重ねることのできる演技の確立を目指していく必要がある。

### 〈出場選手〉

田口久乃

西本愛実

花村夏実

田中友菜  
三好初音

初戦ということもあり、各国ともにまだミスが見られる状況であるが、今後はさらに精度を高めながら、それぞれの国が持つ演技の特性や表現の方向性をより明確に打ち出していくことが予想される。競技全体としては、技術の正確性ととも、構成や表現の一貫性が一層重視されていく流れにある。

日本チームにおいても、本大会を通じて多くの経験を積み、現状の課題と可能性の双方を明確にすることができた。今後は、この経験を着実な強化につなげ、より高い完成度と安定性を備えた演技の構築を目指していきたい。

わずかな取りこぼしが順位に直結する非常にシビアな競技環境の中で、確実に得点を積み重ね、競り合いの中で勝ち切る強さを身につけていくことが重要である。

次戦となるワールドカップ・タシケント大会に向け、本大会で得られた課題と成果を確実に反映させ、更なる競技力向上に努めていきたい。

#### 【リザルト】

SEIKO SPORTSLINK

<https://seikosportslink.com/gygr/206/?i=20010081&l=en>